

日本人2型糖尿病患者において食物繊維摂取が血糖コントロール、心血管リスク、慢性腎臓病に及ぼす影響：福岡県糖尿病患者データベース研究

藤井，裕樹

<https://doi.org/10.15017/1441126>

出版情報：Kyushu University, 2013, 博士（医学），課程博士
バージョン：
権利関係：Fulltext available.



氏 名：藤井 裕樹

論文題名：Impact of dietary fiber intake on glycemic control, cardiovascular risk factors and chronic kidney disease in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: the Fukuoka Diabetes Registry

(日本人 2 型糖尿病患者において食物繊維摂取が血糖コントロール、心血管リスク、慢性腎臓病に及ぼす影響:福岡県糖尿病患者データベース研究)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】食物繊維は世界の民族料理により異なっているが、2 型糖尿病の治療に有益であるとされている。日本人 2 型糖尿病患者における食物繊維と肥満、血糖コントロール、心血管リスクファクター、慢性腎臓病の関連を調査した。

【対象と方法】合計 4,399 名(男性 2,493 名、女性 1,906 名)の患者に簡易型自記式食事歴法質問票を調査した。食物繊維とさまざまな心血管リスクファクターの関連を横断的に調査した。

【結果】BMI、空腹時血糖、HbA1c、中性脂肪、高感度 CRP は多変量調整後に食物繊維摂取と負の関連があった。インスリン感受性(HOMA2%-S)、HDL コレステロールは食物繊維と正の関連があった。腹部肥満、高血圧、メタボリック症候群の頻度は肥満を含む多変量調整後に食物繊維摂取により減少した。またアルブミン尿、eGFR の低下、CKD の頻度はタンパク質摂取を含む多変量調整後に食物繊維摂取により減少した。肥満、高血圧、メタボリック症候群をさらに調整しても関係は変わらなかった。

【結論】日本人 2 型糖尿病患者において食物繊維摂取増加がよい血糖コントロール、CKD を含む心血管リスクファクターに対して好ましい影響があることが示唆された。